



せなみっこ

第6号
令和4年8月26日
村上市立
瀬波小学校



瀬波小HP

心理的安全性の高め方

～「夢や目標」をしっかりと強くもってチャレンジする、やさしいせなみっこ～

校長 若月 隆雄

長い夏休みが終わり、今日から2学期がスタートしました。コロナ感染拡大、豪雨災害等もありましたが、元気に登校してきた子どもたちの姿を見て、本当にうれしく思います。

夏休み中に1冊の本と出会いました。「誰もが幸せに成長できる心理的安全性の高め方」(医学博士：松村亜里著)という本です。「怒られたくない」「失敗したくない」「嫌われたくない」そんな防御や恐れを前向きな気持ちに変えていくのが「心理的安全性」です。「心理的安全性がある」とは、挑戦や失敗を温かく見守ってくれる環境であることを言います。心理的安全性を高めるポイント5を紹介します。

- I 関係性 「幸せと成長を喜び合える関係をつくろう！」
- II 自己効力感 「うまくいかかわからないけれど、とにかくやってみよう！」
- III 自律性 「自分の行動は自分で決めて、人の主体性も尊重していこう！」
- IV 目的と意味 「今やっていることの目的と意味を明確にしよう！」
- V 多様性 「人との違いを歓迎して、“ありのまま”を受け入れていこう！」

この中で、改めて「多様性」について考えてみたいと思います。みなさんは、「多様性」という言葉を聞いた時、どんなことを思い浮かべますか？人種や民族、ジェンダー、あるいは性的マイノリティの問題でしょうか？

多様性は、そうしたさまざまな壁を乗り越え、幸せになるために、今の時代を生きる私たちにとっては外すことのできない大事な基本的欲求です。「あなたは、あなたのままでいい」という多様性が認められる環境にしていけば、心理的安全性が高まります。私自身、子育てを通して「あなたは、あなたのままでいい」を実感しています。子ども一人ひとりの多様性や強みをよく見て、多様性を尊重していくことが大切です。

「どんなことにも挑戦できるせなみっこ」を目指して、希望の未来を意識し、「夢や目標」をしっかりと強く持ち、それに向けてチャレンジして努力することで、自分の可能性を広げていってほしいと思います。

今まで以上に健康に気をつけて「健康の基礎体力」を身に付けるとともに、勉強で「今と未来への基礎体力」もしっかりと身に付け、実りの多い秋になってほしいと願っています。

2学期も感染症対策を適切に講じながら、工夫してできる行事や教育活動を「チーム瀬波小」で前に前に進めていきます。そして、「いじめ・差別をしない、許さないやさしいせなみっこ」を合い言葉に、更に人権意識を高めていきます。11月4日(金)には「いじめ見逃しゼロピアノコンサート」を瀬波地区青少年健全育成会との共催で行う予定です。保護者の皆様や地域の皆様には、更なるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



全国学力・学習状況調査結果について

4月に小学校6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果についてお知らせします。今年度は、国語、算数、理科の3教科で調査が行われました。瀬波小学校では、算数は、全国平均をやや下回り、国語と理科は、全国平均を下回る結果でした。

この調査結果を教育委員会や学校で十分に活用し、学校における教育指導の改善等に役立てます。ただし、この調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

瀬波小での正答率が低い問題の傾向と全国的な課題、指導改善のポイントを紹介します。学習指導要領の内容の平均正答率の状況（瀬波小）を見ると全国や新潟県の状況と類似しています。全国的な課題は、瀬波小の課題と共通しています。今回の結果を基にして、全教職員で授業改善を進めていきたいと思っています。

〔国語〕※ 瀬波小では、特に「言葉の使い方、言語文化に関する事項」「読むこと」に関する正答率が低い傾向にありました。また選択式、記述式の問題への正答率が低い傾向が見られました。

〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

課題○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。

改善策○振り返りの場面などで、自分たちの話合いの様子を確かめる活動を設定する。

〔話すこと・聞くこと〕

課題○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。

改善策○「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれども」などの表現を話し合いの中で用いることができるように指導する。

〔書くこと〕

課題○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。

改善策○「内容や記述などに見られる具体的なよさ」（1，2年）「書こうとしたことの明確さ」（3，4年）「文章全体の構成や展開の明確さ」（5，6年）などを見付けることができるように、系統的に指導する。

〔読むこと〕

課題○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。

改善策○「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことができるように指導する。

〔算数〕※瀬波小では、特に「図形」に関する正答率が低い傾向にありました。

〔数と数式〕

課題○日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する。

改善策○概算にする方法（切り上げ、切り捨て、四捨五入）が適切であるかどうかを判断できるように指導する。

〔図形〕

課題○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する。

改善策○作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるように指導する。

〔変化と関係〕

課題○数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解する。

改善策○日常の場面に対応させながら割合について理解したり，図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりできるように指導する。

〔データの活用〕

課題○目的に応じてデータの特徴を捉え考察することや目的に応じて円グラフを選択し，必要な情報を読み取る。

改善策○目的に応じて，必要なデータを収集し，観点を決めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導する。

〔理科〕※瀬波小では，特に「粒子」「地球」を柱とする領域の正答率が低い傾向にありました。また，記述式の問題への正答率が低い傾向が見られました。

〔エネルギー〕

課題○実験で得た結果を分析して解釈し，具体的な数値や分析した内容に基づいて，結論の根拠を記述する。

改善策○観察，実験の結果の具体的な数値やそれを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定する。

〔物質（粒子）〕

課題○砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を自分や他者の気づきを基に分析し，適切な問題を見いだし記述する。

改善策○自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で，自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え，問題を見いだす場面を設定する。

〔生命〕

課題○昆虫の育ち方と食べ物についての表を整理する過程で気付いたことを基に，適切な問題を見いだす。

改善策○それぞれの気づきを明確にし，主に差異点や共通点を基に問題を見いだす場面を設定する。

〔地球〕

課題○水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解する。

改善策○問題解決を通して習得した知識を使って，日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定する。

〔質問紙調査結果〕※○全国平均よりよい点 ▲全国平均より悪い点

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている児童100%。

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている児童が多い。

○友達と協力するのは楽しいと思っている児童が多い。

○地域行事に参加している児童が多い。

○授業でPCやタブレットなどのICT機器の使用頻度が高い。

○勉強のために30分以上ICT機器を使っている児童が多い。

○学級会で話し合い，互いのよさを生かした解決方法を決めている。

○理科の勉強が好きな児童が多い。

▲1日あたりのテレビゲームを2時間以上している児童が多い。

▲学習内容を見直し，次の学習につなげている児童が少ない。

▲算数の勉強が嫌いな児童が多い。算数の授業内容がよく分からない児童が多い。